

安全データシート

整理番号 : 10233

作成日 2009年11月27日

改訂日 2024年4月1日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: アサヒボンドBE13 硬化剤冬型
 供給者の会社名: アサヒボンド工業株式会社
 住所: 東京都板橋区大谷口北町3-7
 電話番号: (03)3972-4929
 FAX 番号: (03)3972-4583
 緊急連絡電話番号: 営業部(03)-3972-4929
 推奨用途: モルタル及びコンクリートの欠損補修に限る。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口、経皮)	区分4
	急性毒性 (吸入:蒸気、ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分1
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 短期 (急性)	区分1
	水生環境慢性有害性 長期 (慢性)	区分1

* 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起: 危険

危険有害性情報: (H302) 飲み込むと有害
 (H312) 皮膚に接触すると有害
 (H314) 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
 (H318) 重篤な目の損傷

- (H317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 (H341) 遺伝性疾患のおそれの疑い
 (H350) 発がんのおそれ
 (H361) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 (H372) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
 (H372) 水生生物に非常に強い毒性
 (H410) 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き： 【安全対策】

- (P264) 取扱い後は手をよく洗うこと。
 (P270) この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 (P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 (P260) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 (P272) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 (P201) 使用前に取扱説明書を入手すること。
 (P202) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 (P273) 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- (P301+P312) 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
 (P302+P352) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
 (P312) 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 (P362+P364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 (P301+P330+P331) 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 (P303+P361+P353) 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
 (P304+P340) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 (P305+P351+P338) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 (P333+P313) 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
 (P308+P313) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
 (P314) 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 (P391) 漏出物を回収すること。

【保管】 (P405) 施錠して保管すること。

【廃棄】 (P501) 内容物や容器は国・地方の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	モルタル状変性脂肪族ポリアミン		
危険有害成分	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号
変性脂肪族ポリアミン	15～20	記載無し	非開示
マンニヒ付加物	0.2	57214-10-5	(7)-1167
メタ-キシリレンジアミン	0.15	1477-55-0	(3)-308

イソホロンジアミン	0.15>	2855-13-2	(3)-2286
N-アミノエチルピペラジン	3~6	140-31-8	(5)-961
2,4-ジ-tert-ブチルフェノール	4~5	96-76-4	(3)-521
ベンジルアルコール	1.5~3	100-51-6	(3)-1011
無機化合物	15~20	記載有り	既存
シリカ(結晶性)	50~60	14808-60-7	(1)-548
シリカ(非晶性)	1.5>	7631-86-9	(1)-548
その他	2>	記載有り	既存

4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合： 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。多量の水と石鹸で洗うこと。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断を受けること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合： 安静にして直ちに医師の処置を受けること。嘔吐物は飲み込ませないこと。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

消火剤： 小火災；粉末消火剤、二酸化炭素、散水

大火災；粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水

使ってはならない消火剤： 棒状の注水

火災時の特定の危険有害性： 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法： 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。

消火水を止め、後で廃棄する。物質を拡散させてはいけない。

可能な限り遠くから無人ホース保持具やモニター付ノズルを用いて消火する。

容器内に水を入れてはいけない。

消火後も多量の水で十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置： 消火の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

保護具及び緊急時措置： 関係者以外は近づけない。

作業者は適切な保護衣を着用し、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

適切な保護衣を着けていないときは破損した容器或いは漏洩物に触れてはいけない。

風上に留まる。低地から離れる。

密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境中へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策： 全ての発火源を取り除く（近傍で喫煙、火花や火炎の禁止）
排水溝、下水溝、地下室、或いは狭い場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。

安全取扱い注意事項：取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする事。

屋外又は換気のよい場所でのみ使用すること。

作業手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、保護マスク等を着用すること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

安全な保管条件： 特に酸性類、酸化剤、過酸化物から離して保管する。

容器を密閉して、35℃以下の風通しのよいところで施錠して保管すること。

安全な容器包装材料： 表面処理された鋼板、或いはステンレス容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会（2012年版）： シリカ（結晶性）：0.03mg/m³（吸入性粉じん）

シリカ（非晶性）：第3種粉じん

2mg/m³（吸入性粉じん）

無機化合物：第2種粉じん、珪酸10%未満の鉱物性粉じん

1mg/m³（吸入性粉じん）、4mg/m³（総粉じん）

ACGIH（2007年版）： シリカ（結晶性）：TLV-TWA 0.025mg/m³

設備対策： 気中濃度を推奨された管理濃度、許容濃度以下に保つために局所排気装置を設置する。

取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置すること。

保護具

呼吸用保護具： 防毒マスク（有機ガス用）

手の保護具： 不浸透性（耐油性）の保護手袋

眼、顔面の保護具： 保護眼鏡又は安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具： 長袖保護服、長靴、前掛け

特別な注意事項： 取扱い後は、顔等をよく洗い、うがいすること。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。汚染した衣類を再使用する場合は洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色など： 灰黒色ややウェット状粉末

臭い： アミン臭

融点/凝固点： データなし

沸点又は初留点及び沸騰範囲： データなし

可燃性： 可燃性である。

爆発下限及び爆発上限/可燃限界： データなし

引火点： 110°C <

自然発火点： データなし

分解温度： データなし

pH： データなし

動粘性率： データなし。流動性はない。

溶解性： 無機物成分を除いて芳香族炭化水素系溶剤、アルコール系溶剤の混合溶剤に可溶。

n-オクタノール/水分配係数(log 値)： データなし

蒸気圧： データなし

密度及び/又は相対密度： 1.25～1.40 (23°C)

相対ガス密度： データなし

粒子特性： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の手扱いの下で安定性であるが、長時間の空気との接触で変質する。

反応性： 炭酸ガス、酸性物質、エポキシ化合物及びイソシアネート化合物等と反応する。
銅、鉛、スズの合金を侵す。

避けるべき条件： 過度の加熱(35°C以上)。空気及び水との接触。

混合危険物質： 銅、亜鉛、スズの合金、強酸化剤。エポキシ化合物及びイソシアネート化合物
過氧化物等。

危険有害な分解性生物： アミン類、アンモニア、燃焼等による一酸化炭素、窒素酸化物等。

11. 有害性情報

急性毒性 以下の急性毒性の物質を含む。

N-アミノエチルピペラジン、2,4-ジ-tert-ブチルフェノール、ベンジルアルコール、その他を混合成分とする1原料の急性毒性は以下の通り。

経口 ラット LD50 >1500mg/kg

経皮 ウサギ LD50 >1000mg/kg

吸入(蒸気) ラット LC50 データなし

アミドアミン、マンニヒ付加物、ターキリレンジアミンを混合成分とする1原料の急性毒性は以下の通り。

経口 ラット LD50 >2000mg/kg

経皮 ウサギ LD50 >1300mg/kg

吸入(蒸気) ラット LC50 データなし

経口 ターキリレンジアミン ラット LD50 660～980mg/kg

シリカ(非晶性) ラット LD50 3160mg/kg

他の成分は有用なデータなし

経皮 ターキリレンジアミン ウサギ LD50 2000mg/kg

ベンジルアルコール ウサギ LD50 2000mg/kg

	他の成分は有用なデータなし	
吸入（蒸気）	<p>メチルシロキサン ラット LC50 0.8～0.938mg/L</p> <p>ベンジルアルコール ラット LC50 4時間 8.9mg/L</p> <p>シリカ（非晶性） ラット LC50 2190mg/L</p>	
	他の成分は有用なデータなし	
皮膚腐食性/刺激性：	N-アミノエチルピペラジン、2,4-ジ-tert-ブチルフェノール、ベンジルアルコール、その他を混合成分とする1原料は以下の通り。	
	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷（区分1）	
	アミドアミン、マンニヒ付加物、メチルシロキサンを混合成分とする1原料の急性毒性は以下の通り。	
	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷（区分1）	
	メチルシロキサン；モルモットの皮膚に原液の適用で腐食性があると記述、3分後に皮下出血、5分後に壊死が認められ、60分後に6匹全例に皮膚の紅斑、浮腫、出血、壊死が認められた。マウスで60分以内に出血、壊死が認められているとの記述から腐食性があると判断している。	
	他の成分は有用なデータなし	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	N-アミノエチルピペラジン、2,4-ジ-tert-ブチルフェノール、ベンジルアルコール、その他を混合成分とする1原料は以下の通り。	
	重篤な眼の損傷（区分1）	
	アミドアミン、マンニヒ付加物、メチルシロキサンを混合成分とする1原料の急性毒性は以下の通り。	
	重篤な眼の損傷（区分1）	
	無機化合物	区分2
	ベンジルアルコール	区分2
	他の成分は有用なデータなし	
呼吸器感作性：	人へのデータなし	
皮膚感作性：	N-アミノエチルピペラジン、2,4-ジ-tert-ブチルフェノール、ベンジルアルコール、その他を混合成分とする1原料は以下の通り。	
	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（区分1）	
	アミドアミン、マンニヒ付加物、メチルシロキサンを混合成分とする1原料の急性毒性は以下の通り。	
	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（区分1）	
	メチルシロキサン	Positive 70% Maximization法「モルモット」
	他の成分は有用なデータなし	
生殖細胞変異原性：	メチルシロキサン	陰性
	ベンジルアルコール	マウスでの腹腔内投与による in vitro 小核試験で陰性。
	他は有用なデータなし	
発がん性：	ベンジルアルコール	区分に該当しない
	シリカ（結晶性）；IARC グループ1（ヒトへの発がん性がある）、産業学会勧告は1に分類しており、区分1とされた。	
	シリカ（非晶性）；IARC グループ3（ヒトへの発がん性は分類できない）の分類。	

- 他の成分は有用なデータなし
- 生殖毒性： マーキリレンジアミン；ラットを用いた経口投与簡易試験で親動物に一般毒性が認められる用量でも生殖毒性が認められていない。
- 他の成分は有用なデータなし
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露)：
- マーキリレンジアミン；ラットを用いた吸入暴露試験で呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められている。
- 2,4-ジ-tert-ブチルフェノール；ラットを用いた単回経口投与試験で「肉眼的に腎臓の灰白色点又は肥大、組織学的に好塩基性尿細管、顆粒円柱、好中球性の細胞湿潤、鉍質沈着などが認められており、腎臓に影響を及ぼすとされる」(厚労省報告 (Access on October 2008))。臓器の障害のおそれ(腎臓) 区分2
- 無機化合物 区分3
- シリカ(結晶性)；反復ばく露に比べてデータが少ないがヒトにおいて短期ばく露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記載がある。IARCはPriority文書であるため区分1としている。
- シリカ(非晶性) 区分3
- 他の成分は有用なデータなし
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露)：
- 2,4-ジ-tert-ブチルフェノール；ラットを用いた28日間反復経口投与試験において「腎臓の肥大と灰白色点、好塩基性尿細管、顆粒円柱、遠位尿細管拡張、近位尿細管肥大」(Access on October 2008)と記述されている。
- 長期又は反復暴露により臓器の障害のおそれ(区分2)
- 無機化合物 区分2
- シリカ(結晶性)；Priority文書に、ヒトにおいて呼吸器、腎臓に影響を及ぼすとのことで区分1になっている。
- マーキリレンジアミン；ラットを用いた経口投与試験で区分2のガイダンス値範囲を超える用量でも胃粘膜に対する障害以外に重大な毒性作用は認められていない。皮膚腐食性があることから、経口投与による消化器系への影響は局所影響と判断し標的臓器としていない。これらより区分に該当しない扱い。
- 他の成分は有用なデータなし
- 誤えん有害性： 有用なデータなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境急性有害性： 以下の区分の水生環境急性有害性の物質を含む。

マーキリレンジアミン ヒメダカ LC50(96hr) 88mg/L

オジシロ EC50(21day) 8.4mg/L

2,4-ジ-tert-ブチルフェノール ヒメダカ LC50(96hr) 0.68mg/L (区分1)

オジシロ EC50(48hr) 0.33mg/L

他の成分は有用なデータなし

水生環境慢性有害性： マーキリレンジアミン ヒメダカ データなし。

オキシゾン 21dayNOEC 4.7mg/L

2,4-ジ-tert-ブチルフェノール; 難分解性であり、藻類の72時間NOEC=0.18mg/L(環境省生体影響試験2004)から区分2とされている。

他の成分は有用なデータなし

残留性・分解性:	メタキシレンジアミン	難分解性(分解物なし)
	2,4-ジ-tert-ブチルフェノール	難分解性: BOD分解度0%(既存点検1987)
	他の成分は有用なデータなし	
生態蓄積性:	メタキシレンジアミン	低濃縮性とされる。
	2,4-ジ-tert-ブチルフェノール	魚類で生物濃縮があるとされる。
	他の成分は有用なデータなし	
土壤中の移動性:	データなし	
オゾン層への有害性:	本製品の各成分は、モントリオール議定書の付属書にリストされていない。	

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 廃棄は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体が処理を行っている場合はそこに委託し処理する。

処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器は内容を完全に除去してから処分する。

1.4. 輸送上の注意

国連番号:	3259
品名(国連輸送名):	ポリアミン類(固体)(腐食性のもの)
国連分類:	8
容器等級:	III
海洋汚染物質:	該当(Y類物質;ベンジルアルコール)

国内規制

陸上規制情報: 消防法の規定に従う。

海上規制情報: 船舶安全法の規定に従うこと。

特別な安全対策: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れ、転倒が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

1.5. 適用法令

消防法: 危険物に該当しない。

化審法: 既存化学物質リストへの収載

毒物及び劇物取締法: 以下の理由により成分及び本製品は非該当品です。

イソホロンジアミンとメタキシレンジアミンは規制濃度以下です。

化学物質管理促進法(PRTR法): 非該当(第1種指定化学物質2,4-ジ-tert-ブチルフェノールは2023年4月1日から対象除外になりました)

労働安全衛生法 名称等を表示すべき有害物（第 57 条の 1 項）：
 ベンジルアルコール、シリカ（結晶性）
 名称等を通知すべき有害物（第 57 条の 2 項）：
 メタ-キシリレンジアミン、ベンジルアルコール、シリカ（結晶性）
 がん原性がある物（第 57 条の 2 第 3 項）
 シリカ（結晶性）

皮膚等障害化学物質 非該当

厚生労働省労働基準局長通達： エポキシ樹脂硬化剤の主成分表示；変性脂肪族ポリアミン、脂環式アミン

海洋汚染物質防止法： Y 類物質（ベンジルアルコール）

船舶安全法： 腐食性物質（危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1）

航空法： 腐食性物質（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）

16. その他の情報

JAIA-005396-F☆☆☆☆

- 主な引用文献
- 1) JIS Z 7253(2019) 日本規格協会
 - 2) 原料メーカー発行の安全データシート
 - 3) 日本化学工業協会「緊急時対応措置指針」

この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常の実用を前提としたものなので特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上ご利用下さい。